

地球規模課題 WG 第1回ミーティング

日時：6月22日(火) 16:00~18:30

場所：難民を助ける会 3F会議室

参加者：消費者団体 高橋怜一（日本生活協同組合連合会）

金融 金井司（住友信託銀行）

政府 平塚敦之（経済産業省）、福澤秀典（同）

小高大輔（環境省）

杉井威夫（内閣府）

中井裕一（外務省）

NPO/NGO 小松豊明（特活シャブラニール=市民による海外協力の会）、勝井裕美（同）

開澤真一郎（特活 NICE）

星野智子（一般社団法人環境パートナーシップ会議）

宮下恵（特活国際協力 NGO センター）

岩附由香（特活 ACE）、植木美穂（同）

堀江良彰（特活難民を助ける会）、吉澤有紀（同）

(1) 自己紹介、WG 委員選出状況

事業者団体：事業者内での検討会を本日実施中。そこで選出予定。

専門家：現状、未決定。参加は必須ではない。

政府・貿易経済協力課：服部崇氏（オブザーバー）

・オブザーバーと委員の違いは何か。

→政府は全ての 이슈について専門知識があるわけではないので、オブザーバーと聞いている。WG としては、ぜひ委員として参加して欲しい。

・追加で参加する場合は、部会での承認が必要なのか。

→随時、主査から戦略部会長及び運営委員長に報告いただければ問題ない。

(2) 主査の選出について

運営委員会で、主査は置いたほうが良いとの意見がでた。当初は専門家をお願いをする方向であったが、必ずしも WG に専門家が参加しているわけではないので、専門家に限らなくても良い。現時点で WG に参加していない専門家でもよい。選出方法を各 WG で検討する。

・他 WG はどのような状況か

→地域：NPO セクターの川北氏 当初から検討を中心的に進めていた方

教育：事業者・消費者団体から2名（運営委員）

- ・マルチセクターなので、2名（主査・副主査）を別々のセクターから出してはどうか。
- ・運営会議の動きを知っている方が良いのではないかと。  
→必ずしも運営会議に参加している人でなくてもよい。多くの人が関わるという意味では、むしろ違う方のほうが良いのではないかと。
- ・他 WG では、これまで中心的に進めてきた方がなっている。岩附さんをお願いできないかと。  
→岩附さん、承諾。  
これまで通り、会議の準備・進行を行う。会議中に検討事項となったことなどは、主セクターである NPO セクターで話し合うことを了解いただけるか。  
→了解。

- ・副主査は、他セクターからは是非お願いしたい。  
→円卓会議設立当初は、内閣府も主査をやっていただくとお話をいただいていたが。  
→内閣府：裏方の役目なので、主査ではなくサポートを中心に行っていく  
金融セクター：物理的に難しい  
消費者団体：消費者から一人なので、消費者団体としての意見を言える立場でいたい。  
→主査から改めてお声かけする。

### （3） 前回準備会（4/22）の振り返り

- ・表彰制度の設置：協働プロジェクト案から取り下げ。5月の提出時点で検討がつかないままだったこともあり、協働プロジェクト検討チームでの話し合いで取り下げが決定。  
→検討段階での感触はどうだったか。問題はスケジュールだけだったのか。  
→表彰制度を行うのであれば、MDGs だけに絞ることや、資金的問題もあった。
- ・協働プロジェクトは、どこかの WG と結びついているわけではないと聞いている。  
→消費者教育は、強くリンクしている。地域は、別運営チームを立ち上げる予定。
- ・表彰制度は、既存でかなりある。新たにやっても、新鮮味がない。  
内容が不明確であると、表彰されずに不満をもたれることが多い。

### （4） 趣意書の確認

- ・趣意書のスケジュール1月にある「協働戦略」は「行動計画」の誤り。  
6/11 運営委員会資料によると、行動計画（素案）は12月に提出する必要がある。

・行動計画のフォーマットは未定。内容は、「成果目標」「各主体の行動」「協働プロジェクト案」「政府への政策提言」からなる。政府の予算に関わる事項が求められている。検討を進めていく上では、予算スケジュールも考慮すべき。

→予算が必要となる行動とそれ以外を分けて考えていくのも1手段。

・外部講師の謝金は、用意されている（金額は講師の経歴などによる）。旅費は、全WGで771,360円用意されている。内訳は、WG同士で話し合い。

・行動計画に「政府への政策提言」とあるが、政府も行動計画を検討するメンバーの一員。

→政策提言は、政府以外のセクターから出すという形になる。

WG内でも政府以外のセクターで合意が取れれば、WGとして政策提言をすることは可能。

・協働戦略について、WGとして作業を進める必要はあるのか。

→WGに求められているのは、行動計画。協働戦略全体に関しては、不明。WGから意見を出せるとは思う。

→まずはWGごとに行動計画を出し合って、全体像を作り上げていく。

・経産省は、BOPは主担当として意識し、担当者も決めている。他課題についても、検討を進める中で参加していく。

・行動計画に含まれる「成果目標」について、次回、各自得意分野について出し合うという進め方はどうか。

→経産省：担当に感触を確認する。

#### (5) 審議の進め方

・時間的制約があるので、昨年11月のような勉強会は省略してはどうか（メール送付、添付などで補完）

・主担当が提言案案を出して、それを元にWGで意見を出し合ってはどうか。

・事業者/金融セクターでは、セクターとしての意見を取りまとめて出すことは難しい。個別具体的な目標がないと参加しづらい。

・まずは事例集めの方が取り組みやすい。

・WGに入っていない、他団体・企業などのセミナーやイベントと組み合わせて行ってはどうか。多くの人への普及にもなる。

・成果目標・行動計画の落としどころを先に決めてはどうか。（中長期的な抽象的な目標、or 実現可能なレベルの行動計画）

→2〜3年で達成できるレベルを想定している。

- 目標は海外事項なのに、行動は国内に閉じては目標と離れてしまうのではないか。
- 円卓会議は、他セクターで取り組むことに意義がある。WGでの成果は、地球規模の課題の解決そのものではなくても良いのではないか。その課題解決に向けた、WG・円卓会議としての目標でよいのではないか。
- 長期的な目標は、すでに趣意書に含まれていたり、既に提唱されているもの。
- 短・中期的な目標の方が、政府としても取り組みやすい。
- ・ WGで決めたことをセクター全体として取り組むことは、特に事業主・金融セクターは難しい。入りやすい、具体的な目標だと良い。
- 他セクターも全体で取り組むことの難しさはある。実現可能性について、WGにて意見を出し合っていきたい。
- ・ セクターにより関わり方の濃淡はあるにしても、この円卓会議の意義は、マルチセクターであることにある。それぞれのできることをやっていけばよいのではないか。
- ・ 今まで限られたセクターで協働してきたことを、そこに1つでも参加するセクターが増えることで効果が増すのであれば、意義があるのではないか。(全ての取り組みに全セクターが関わることは必ずしも必須ではないのでは)

#### 【成果目標】

- ・ 2～3年間の協働によるもの (H23～H25)
- ・ チェック可能なもの                      ・ マルチセクターで取り組むもの
- ・ 実現可能なもの                            ・ 個別具体的なもの
- ・ “SMART”なもの

#### (6) 今後のWGの進め方

- ・ 既存の事例に対して、そこに協働するならどのようなことができるか、効果を挙げるためには各セクターで何ができるか、を考えることで、広がる可能性はある。
- ・ 勉強会は、必要に応じて開く、あるいは既存のものに参加していけばよいのではないか。
- ・ 貧困と環境問題の進め方。今でている課題を分けて考えずに、全てつながっているの、一緒に考えていってはどうか。
- ・ 最終的な行動計画を作る段階では、作業Gとして分けても良いかもしれないが、最初の事例収集・検討段階では、一緒の方がよい。
- ・ 事例だけではなく、協働により効果アップが期待されるアイデアも出してはどうか。
- ・ 課題ごとの事例を出すのではなく、今取り組んでいる事例+αを各自出しても良いのではないか。
- ・ 地球規模のサミットで出された成果文書の分析(取り組み状況)を見るのも1つのやり方。政府の取り組み中心だが、他セクターでやれることもある。

- ・日本の貧困問題はどこかのWGで取り上げているのか。  
→ともに生きるが一番近いが、特別に挙げてはいない。次回運営委員会で確認する。

【今後の進め方】

7月 協働事例の収集→今後の進め方の確認

<入れる項目> 協働の成功/失敗要因、協働しているセクター (多い事例)

<事例発表> WGメンバー以外の関係者にも開く。スケジュールはNPOセクターで検討

環境 : 古沢先生 (環境と開発の専門家) に依頼する (担当: 星野)  
自然保護基金 (発表: 金融) →できるか確認する (担当: 金井)  
森林 (発表: 開澤)

貧困・開発: フェアトレード (発表: シャプラニール)  
MDGs (発表: JANIC)  
児童労働 (発表: ACE)  
BOP (発表: 経産省)

※消費者団体での連携事例について、発表可能かどうか確認する (担当: 高橋)

日程調整は7~12月までしておく。

次回の進め方は、都度運営会議などの状況も確認しながら、決めていく。

スケジュール調整: Webの調整機能を使う。別途、メールにて連絡する。

MLを作る